

9 7 微小藻類3種のアサリに対する餌料効果

福島県水産種苗研究所・福島県水産種苗研究所研究報告書第3号

- 1 部門名 水産業—種苗研究(基礎)—餌料 分類コード 19—07—20000000
2 担当者 千代窪孝志・平田豊彦・鈴木信
3 要旨

アサリを含む海産二枚貝の多くは、海水中から餌料生物や浮遊懸濁物質を鰓により濾別して摂餌を行っており、飼育餌料としては微小藻類が適しているとされている。そこでアサリ種苗生産における有効な給餌法を検討するため、珪藻綱の *Chaetoceros calcitrans*、*Chaetoceros gracilis*、プラシノ藻綱の *Tetraselmis tetrathele* の3種の単独、混合給餌を行った。

(1)無給餌区を含む全ての試験区で96.8%以上と生残率が高く、給餌の有無および給餌方法の違いによる生残率の向上は認められなかった。

(2)単独給餌区では *Ch. cal.* > *Ch. gra.* > *T. tetra.* の順で殻長、湿重量ともに高い成長率を示し、餌料種による成長の違いがみられた。

(3) *Ch. gra.* と *T. tetra.* の混合給餌を行った結果、単独給餌で最も成長が良かった *Ch. cal.* より平均殻長で1.3倍、湿重量で2倍の成長が認められた。

以上のことから、*Ch. gra.* と *T. tetra.* を組み合わせた混合給餌は、アサリを含む多くの二枚貝で好適とされる *Ch. cal.* よりも高い成長率を示し、大きな成長促進効果が認められたことから、種苗生産期間の短縮が可能と考えられる。また *Ch. gra.*、*T. tetra.* の2種は *Ch. cal.* に比べ、餌料が最も必要になる夏期の30℃前後の水温においても粗放に屋外での大量培養が可能なことから、アサリ種苗生産において有効な餌料種類であると考えられる。